

第5回沼南近隣センター整備検討会 会議録

日時

令和8年7月5日(日)午後1時30分から午後2時45分まで

場所

沼南庁舎 大会議室

参加者

検討委員 10名

・風早北部地域ふるさと協議会 4名

・ひまわりプラザ利用者団体連絡会 2名

・大島田区, 風早中学校 PTA, 風早北部小学校 PTA, 大津ヶ丘第一小学校 PTA 各1名

事務局 6名

・市民生活部長他

傍聴者 5名

議事概要

1 開会

2 市(事務局)説明

当日資料に基づき説明

3 協議

風早北部地域ふるさと協議会長を座長として協議を進行

(座長)

市からの説明に対して質問・意見があれば協議を行う。

- ・資料4ページに, 次年度以降に警察等との協議や基本設計に着手するという記述があるが, この次年度以降とは令和 11 年度以降のことを指すのか。

(市) 令和9年度に整備の構想や計画を策定を予定しており, 警察や交通事業者との協議については, その翌年度である令和 10 年度(構想策定の次の年度)から取り組んでいく見通しである。

- ・3月予定であった協議会がここまで延期された理由として, 警察との協議が行われていたとのことだが, 住民への説明も必要であるため, その具体的な協議内容を教えてほしい。

(市) 整備候補地であるバス乗り継ぎ場の周囲が, 全て道路に囲まれているため, 安全面の確保が課題となっていた。そのため交通の安全確保対策や, 今後の具体的な協議の進め方・スケジュール感の確認のため, 県警本部に相談を行った。

- ・敷地内での具体的なバスの転回等の方法についてはまだ話し合っておらず、これから検討していくということか。

(市) 警察から具体的な施設規模、想定する機能などが定まってから改めて確認したいとの回答があった。簡易的な資料ではなく、専門家を交えて図面や切り回しの方法をきちんと策定した上で、相談してほしいと回答があったため、今後は予算を計上して専門的・具体的に検討を進めていく方針である。

- ・住民は様々な期待を持ちながら検討の推移を見守っており、少しずつ関心も浸透してきているが、完成した際に落胆を招く結果になることを心配している。結果として意見がまとまるのに時間がかかる可能性はあるが、判断材料が示されないと住民は強い不安を抱くため、たたき台などの資料をしっかりと提供してほしい。

(市) これまでも様々な想定はしてきたが、専門知識を交えないまま作成した資料では、後から警察等との協議の中で実現不可となるリスクが極めて高い。そのため、まずは専門家に図面などの資料作成を依頼し、それをたたき台として皆様に提示しながら意見をいただき精査をしていく予定。

- ・警察との協議と同時に、バスの運行ルートを維持する場合は、バス事業者から国土交通省への変更手続きも認可事項と思われるため、そのスケジュールについても確認した方がよい。
- ・各団体の代表として、今日の話合いの内容を組織内で説明する必要があるので、なぜ遅れたのか、また、今後どうなるのかを我々がわかるように説明してほしい。

(市) 当初は柏市が自前で基本構想を作成する予定であったが、専門知識がない状態では、検討の漏れる事項が発生するリスクがある。また、今回の警察協議を経て、より確実な構想を立てる必要性が浮き彫りとなった。そのため、新たに1年をかけて「基本構想・整備計画」をしっかりと策定する方針である。

- ・警察との事前協議において、最低限クリアすべき条件やアドバイスなどは警察側から提示されているのか。

(市) 警察からの具体的な最低条件の提示はなかった。今回は、具体的な平米数などの細かい情報を提示できなかったため、まずは複合的な要素や規模感をきちんと決めてから再度相談してほしいという助言を受けた。

- ・専門業者が資料を作成すれば、警察との協議は通るという認識か。もし整備案が通らないことがあれば、さらにスケジュールが遅れてしまうのではないかと懸念している。

(市) 専門的な知見を持つ事業者に検討を依頼しつつ資料作成を進めることで、計

画が白紙に戻るような懸念や、リスクを軽減できると考えている。外部の専門的な知見を活用する方針へ大きく切り替えることで、確実な計画策定を目指す。

- ・整備候補地内にある北部小学校の第二ルームについて、学校側は教室に余裕がなく、アフタースクールが始まって部屋が足りないため、第二ルームが潰れると非常に困るという話が出ている。この課題についてどのように考えているか。

(市) 近隣センターの見直しには、交通関係部署や子ども関係部署など、様々な公共施設に携わる部署が関わっている。現在は、各関係部署と一つ一つ確認や調整を行っている段階であり、寄せられた意見も加味しながら今後進め方を検討していく。

- ・資料1ページの今後の検討事項にある「近隣センターとしての貸室、図書館といった機能の整備における方向性」という記述には、当初から話し合っていたホールも含まれるという認識でよいか。また、防災拠点としての機能も含まれるということによいか。

(市) 貸室や図書館だけでなく、ホールの機能についても整理対象の一つに含まれている。また、防災拠点としての活用についても同様に含まれるという認識で相違ない。

- ・警察とのやり取りは協議ではなく事前相談のように見受けられるが、その中で用いたという簡易図面は、住民に説明する材料や、検討会メンバーへの情報共有として公開することはできなかったのか。

(市) 警察からもう少し具体的な図面を持参するよう指摘されている。そのため、今回予算を計上して、専門家による具体的な図面を用意し、それをしっかりと皆さんに提示していくべきであると判断した。

- ・整備検討会でワークショップにどういう人に来てほしいかを話し合うにしても、その前提となる情報や方向性が分からないので、誰を呼ぶべきかの判断ができない。検討のたたき台として、図面のような具体的な情報や資料を提供してほしい。

(市) 現在は整備構想・計画を発注するための仕様書を作成している段階であるが、ワークショップの回数や想定するニーズによって発注内容が変わるため、整備検討会では、仕様書に盛り込むための住民にヒアリングすべき事項などの意見を募り、発注内容を固めていきたいと考えている。

- ・現状ではワークショップのメンバーが何を検討すべきかも分からず、住民への説明もできない状態である。検討漏れは土地に関してだけでなく、建物や資金面など他にもあるのではないかと不安を抱いている。また、当初予定されていた建設予定から何年遅れるのかも見えない。ワークショップを進めるためにも、まずは事務局から説明可能な資料を提示してほしい。

(市) 現状では、敷地の形状や、地下の利用、地上何階建てといった構造のパター

ンがまだ定まっていない状況である。今後は専門業者に委託し、住民に愛される施設にするための様々なパターンを作成していく。その過程で、検討会やワークショップで住民から意見を募っていく予定である。専門業者への委託が進む中で、徐々に詳細が明らかになっていくため、現段階では具体案や図面を提示できないことについてご理解いただきたい。

- ・現状として、図面にするのが難しい状況は理解できるが、今後のワークショップが発注時の仕様書の作成に繋がるものであれば、計画とワークショップを同時進行で前に進められるのではないかと。敷地に対する建物図面が作成できないのであれば、設備の規模をここで約束してもらい、具体的なワークショップへ移行して進められると考える。

(市) 整備検討会では、委員がそれぞれの所属団体や身の回りから吸い上げた意見をもとに、今後の意見聴取の進め方について知見をいただきたいと考えている。次回の整備検討会に向けては、可能な限り皆様にご納得いただけるような資料を準備していく。

- ・市内の近隣センターを視察したが、地域ごとの公平性を意識するあまり、限られた規模の中に同じような施設が押し込められている印象を受けた。例えば、一方の近隣センターは図書館を非常に充実させ、隣接するもう1つの近隣センターは、ボール遊びができるような体育室を充実させるといった考え方はできないか。近所の小さな図書館を親子で利用する光景も目にしたため一概には言えないが、各施設をより充実させるための考え方として検討してほしい。

(市) 機能を集約する方法も一案ではあるが、市民からは多種多様な意見が出されるため、万人が納得する設備配置は非常に難しい。そのため、現状は地域ごとのバランスを考慮した一律の配置となっている。より良い施設づくりの方策の一つとして意見は承るが、実際の導入は難しい。

- ・7月から9月の予定では、整備構想・計画策定に向けたワークショップの対象者などの検討とあるが、対象者を検討するのがこの検討会の役割であり、この期間中にワークショップ自体は開催しないということか。

(市) 現時点でワークショップ自体の開催は予定していない。整備検討会では、来年度に効果的なワークショップを実施するために、どのような対象者に向けて開催すべきかというパターンを検討・整理する役割をお願いしたい。

- ・専門的な業者のノウハウを活用して計画を進めるにあたり、プロポーザルでの発注を想定しているのか。その際の仕様書は、細かい仕様まで決めて出すのか、それとも大まかな内容を提示して提案を競わせるのか。また、その前提となるワークショップの参加人数や大まかな方向性程度であれば、現時点でこちらが決めてしまってもよいのではないかと。

(市) 現在は関係部署と調整中であり、具体的にどのような仕様にするかはまだ決

まっていない。ワークショップの規模や回数は人件費や発注価格に直結するため、事前に本検討会から意見をもらい、それを仕様書に入れ込む予定。

- ・市側は警察協議に使用した簡易図面をまだできていないと判断して用意しなかったのかもしれないが、限られた話し合いの回数の中では、こうした図面は非常に重要である。図面を提示することで、意見が凝り固まり独創性が出にくくなる懸念はあるものの、具体的な資料が一つあるだけで、建設的な議論となり、話し合いもスムーズになるので、手元にある図面などの情報は共有してほしい。
- ・この整備検討会の開催情報を広報かしわに掲載することはできないか。市民への周知としては広報かしわが最も有効なツールだと考える。新年度という節目でもあるため、どこかのタイミングで一度だけでも掲載できるよう、前向きに検討してほしい。

（市）検討する。

4 その他

（市）次回検討会を8月8日（土）に開催予定。

5 閉会